

## ドル円の展望

二宮 圭子

シニアFXマーケットアナリスト  
SMBC信託銀行  
投資部



今年も間もなく終わろうとしている。年初、ドル円は112円70銭付近で始まったが、3月に104円56銭まで下落。その後、反転上昇して10月に114円55銭の年初来高値を付けた。しかし、相場の流れを再びドル安・円高に変えたのは、12月18、19日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で利上げ継続の姿勢が示されたため。こうしたなか、トランプ米大統領が暫定予算案への署名を拒否し、一部政府機関が閉鎖。また、シリア・アフガニスタンからの撤退を決めた同大統領に対する抗議ともいえるマクス米国防長官の退任が年内に前倒しされ、中東の地政学的リスクが高まったこと。米連邦準備理事会(FRB)のパウエル議長やムニューシン財務長官の辞任までもが噂されるなど複合的な要因が挙げられる。

欧州市場がクリスマスで祝日休場となるなか米国株の乱高下が火種となったが、投資家の不安心理を表すとされるVIX指数は36から30へいったん低下した。ただ、平時の20からは程遠い高水準にとどまっており、株安・円高のリスクはくすぶる。ドル円は25日に節目の110円ちょうどで下げ渋った格好だが、10月末以降が概ね112-114円のレンジ相場でこう着していただけに、足元の下落後は112円で上値の抵抗を受けている状況。今年最後の取引となる31日のNY市場で、年初始まった112円70銭付近を下回るドル安・円高水準で取引を終えれば、チャート上、ローソク足は3年連続の陰線を示現することになる。ただ、年間の下げ幅(高値・安値ベース)は2016年が23円弱、2017年は11円強、2018年は10円弱と振れは徐々に小さくなっている。

遡ること2015年12月、米連邦準備理事会(FRB)は9年半ぶりに政策金利の引き上げに着手したが、日銀の黒田総裁が半年前の6月に円安をけん制。アベノミクスによって醸成された円安相場はすでに円高相場に転じ、FRBの利上げにもかかわらず、ドルは上伸を阻まれた。2016年6月には、英国が欧州連合(EU)離脱の是非を問う国民投票で離脱を選択。リスク回避に伴う円買い加速でドル円は99円02銭まで急落したが、日銀の強力な金融緩和がさらなる円高を阻止。同12月の米大統領選を受けた成長・インフレ期待がドルの押し上げにつながり、ドル円は99-125円台の三角持ち合いを形成した(図表1)。今年2018年9月には125円86銭を起点とする上値抵抗線(レジスタンスライン)を上抜けて、ドル高・円安の機運が高まったが、足元の急落で現在110円50銭に位置するレジスタンスラインまで押し戻されており、相場の節目がドル安・円高に変わるのかどうか注目される。他方、2016年6月安値99円02銭を起点とする下値支持線(サポートライン)は現在107円ちょうど付近に推移。2016-2018年の初頭がドル安・円高の基調だったこともあって、市場の下値警戒感はくすぶる。ドル円は心理的節目となる110円を割り込むと、このサポートラインの延長線上にみる水準が強力な下値メドとなろう。

【図表1】 ドル円の月足ローソク足チャート



出所: Bloomberg のデータをもとに投資調査部作成